

# 「ありがとう」を伝える

島根県 玉雲寺 住職 曾根慎吾

私は大阪の出身で、学生の時に仏道を志し出家しました。そしてご縁を頂戴し、今は島根県の玉雲寺というお寺で、先代の住職の奥様と二人で生活しています。奥様は九十四歳とご高齢で、食事の準備など身の回りのことをするのが少し困難ということもあり、拙いながらも私が身の回りのお世話をさせていただいております。

一緒に生活をしていると、奥様はよく「いつもすまないねえ、ありがとう」と私に労いの言葉をかけてくださいます。「ありがとう」、何気ない言葉ではありますが、そこには奥様の優しさ、思いやりがありました。

しかし、慣れぬ土地での生活、そして高齢の奥様の身の回りのお世話。慣れぬことばかりの暮らしに、私は疲れてしまったこともありました。そんな時にかげられた「ありがとう」の言葉。この言葉は、私の心に深く染み入りました。「私の行いを喜んでくれる人がいる。待ってくれる人がいる」そう思うと、報われたような、救われたような

気持ちになりました。

お経の中に、愛を語ると書く「愛語」というお示しがあります。「愛語」とは、読んで字の如く「愛のある言葉がけをしましょう」「思いやりのある言葉がけをしましょう」という教えです。疲れていた私を癒してくれた「ありがとう」の一言、思いやりのある言葉がけ、そこには「愛語」があつたのです。

皆さんの心からの「ありがとう」は、きっと誰かの活力になっているはずです。誰かの心に優しい気持ちをもたらしめているはずです。思いや気持ちは繋がっています。「愛語」も同じです。皆さんそれぞれの「ありがとう」は、また誰かへの「ありがとう」に繋がっています。感謝しすぎるといふことはありません。「ありがとう」、この言葉を伝えてあげてください。

(平成三十年九月放送)